



暮らす

「将来にわたって暮らしを支える社会」を実現します！



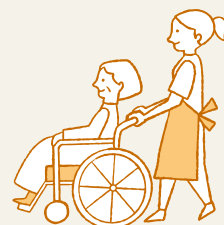
全国巡回の中、「仕事と育児の両立環境が整っていないから働き続けたいけど、もう無理」、「社会としての支え手が少ない中で、親の介護をすることになったら働くことはできない」などの言葉をいただき、この切実な悩みを何とか解決しなければならないという思いが、確実に私の心に留まっていきました。生活者一人ひとりの「暮らし」を社会や地域全体で見守り、支えあう仕組みが必要です。そして、電機産業の技術で『将来にわたって暮らしを支える社会を実現しなければならない』これが政策へとつながりました。



POINT 01

電機産業の技術を活かして、誰もが繋がり支え合える持続可能な社会（デジタル活用共生社会・脱炭素社会）を実現します

- 医療や介護、保育の現場でのデジタル技術の活用やマイナンバーの利用範囲拡大によるサービス向上、運営効率化、迅速な給付体制整備
- お年寄りや障がいを持つ人に優しく、活躍範囲を広げる「誰一人取り残さないデジタル社会」の実現
- 感染症対策や防災・減災分野におけるICTやデータの利活用による安心・安全の確保
- 再生可能エネルギーの拡大、蓄電池やEV活用によるエネルギーの利用効率向上など、温室効果ガス排出実質ゼロをめざす脱炭素社会の実現



POINT 02

将来にわたって安心して暮らせる、ひとが中心のまちづくりに取り組みます

- 交通・金融機関・商業施設・文化施設などの生活インフラを維持・整備し、住民同士がつながり、支え合える地域コミュニティづくり
- 医療・介護・障がい福祉の連携による地域包括ケアの充実
- 介護保険制度の拡充や相談支援体制の強化など、ヤングケアラー支援の推進
- 地域において孤立・孤独対策、ひきこもり状態となっている家庭へのアウトリーチを含む支援の推進



POINT 03

誰もが必要なサービスを受けられ、将来に不安がない社会保障制度の仕組みをつくります

- 公的年金の財政基盤強化
- 短時間労働者の社会保険の適用拡大
- 健康寿命の延伸に向けた予防医療の充実

